

# 退職園長による子育て塾(1)

## 環境と育ち

戒<sup>えびす</sup> 喜久恵

幼稚園教員経験者が退職という節目で「何かで  
きることをして楽しみたい」とボランティアで始  
めた子育て塾『にじサタデー』の実践について六  
回シリーズで報告したいと思います。

### 『にじサタデー』の概要

#### 1 名称

実施場所がかつての国分尼寺跡の石井町尼寺で

あること、実施日が土曜日であること、そしてさ  
まざまな個性が集まって虹を創ろうとの願いを込  
めて名付けました。三年目の現在では、保護者は  
『にじサタ』と短く呼びあい、子どもたちは『に  
じようちえん』『もう一つのようちえん』と自分  
の通っている幼稚園と区別をしたり、『タケノコ  
掘りようちえん』『そうめん流しようちえん』な  
ど印象深かった出来事名をつけて呼んでいます。

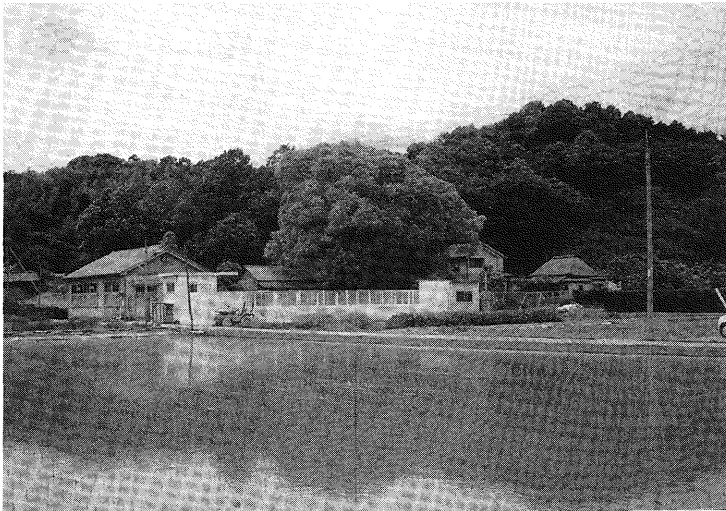
呼び方はさまざまですがそれぞれの思いが伝わりあっています。

## 2 目的と方法

子育てを請け負うのではなく、今までの保育経験を生かして参加者の家庭での子育てが少しでも潤い創造的になるように、「子どもがいるからこんなことが出来る」「子どもとするから楽しい」ことを提案し、「子どもといる時間を楽しむ保育」を伝えていきたいと考えています。そこで、すでに在る環境を積極的に活用し、少し工夫することで自分の子育てに生かしていく生活体験を共に楽しむようにしています。その中で子どもものすばらしさを共感していきたいと考えています。

## 3 実施場所

石井町立石井小学校尼寺分校を毎月第四土曜日



▲自然に包まれた尼寺分校

に借用しています。徳島市より約八キロメートルの郊外にある小さな小学校で周辺には田畑、小川、原っぱがあり、校庭には大樹や花壇、裏山には地域の方が所有する竹藪やドンケリがなるクヌギの林もあり自然に恵まれた場所にあります。地域に子どもが少なくなり、三年前から休校になっています。

#### 4 参加者

○歳から三歳の子どもとその保護者、中でも家庭で初めての子育てをしている方たちに子育ての情報提供や悩み相談が出来たらとスタートしましたが、卒業がない上に兄弟が加わり、三年目を迎えた現在では生後八ヶ月から小学校五年生まで三十八名の登録児があります。

また、スタッフも退職園長四名で始めましたが現役の教員や元教員、幼稚園教員を目指している

学生の参加があり、それぞれの立場で学びあっています。先輩ママの教育力も発揮されています。

#### 5 参加費

子ども一人につき年間一〇〇〇円（そのうち五

〇〇円は保険料、残りがおやつ（材料費）です。

初回は体験入学で、二度目の参加時に納めていただきます。

#### 6 実施日とおよその日課

毎月第四土曜日

校内で過ごす時のおよその目標を表1のように決めていますが、子どもの好きな散歩やおむすびを持つてのお出かけなどその日のお天気や活動によって常に変更されています。

また、その日の天候や参加してくる子どもたちの様子から生活の場面を創造しながら参加者と一

9:00~9:30	生活の場を今日の活動を想像しつつ整える。
9:30~11:00	子どもと一緒に過ごす(おやつ作りもする)。
11:00~11:30	おやつを食べながら親・子・スタッフで歓談する。
11:30~12:30	おやつ場の片づけや続きの活動をする。 今日の保育や子どもの様子について話し合う。 生活の場を元のように整える。

緒に遊び空間を準備したり整えたりして子どもとの生活を創り出すことや、この場所ですまざまな経験が出来たことに感謝しつつ元の状況にして返すことも大切にしています。

## 7 その日の生活 のなかみ

子どもたちの創り出す遊びはスタッフが提供するものは少ないのです。その日になってみないと

んなメンバーが揃うかわからないからです。低年齢児が多く、しかも少人数の時はゆったり穏やかな時間が流れます。散歩に出ても手をつないで歩くことが楽しかったり、水の流れをじっとのぞき込んだり、草原に座って草をむしったり投げたり、小さな虫に出会ったりもします。幼稚園児や小学生が数人揃うと活発な動きが生まれます。小さな子どもたちもそれにつられて動くことになりました。その日それぞれの子どもたちが始めたことやしたいことを大切にしているといつの間にか全体の流れが生まれてきます。また、その日になって突如として予期せぬことが飛び込んでくるものもあります。近所の方から「稲苗をたてるのに畑の大根がじゃまになるので抜いて持ってきてきょうか。もらってくれますか」と声をかけられ「じゃまにならなければ親子で大根ぬかせてください」と急ぎ大根畑へ、ということもあります。

「せっかくの」「またとない」チャンスは取り入  
れていきます。また、月に一度の保育ですからタ  
ケノコ掘りなどその季節でないとい体験できないも  
のや、お月見団子、お餅つき、草餅、焼き芋など  
のおやつ作りに季節の恵みを取り込んだ生活を織  
り込んでいくようにしています。

### 田んぼサッカー

分校の横の小さな小川（側溝ほどの幅ですがき  
れいな谷水が流れている）とやっと乗用車が通れ  
る幅の道路を挟んで空き地がある。元は田んぼで  
あるがつい最近国分尼寺跡の発掘が部分的に行わ  
れていて決して広くない。しかし、分校の校庭は  
ドッジボールのコートがやっと一個とれるほどの  
空間しかない。それでも先月はよちよち歩きの弟  
妹に気を遣いながら幼稚園児・小学生がボールを  
蹴っていた。今月は存分にボールを蹴ることが出

来る空間として空き地を選んだようである。空間  
は確保できたが地面が平らでなく、まるでラグ  
ビーボールのように思いもかけない方向にバウン  
ドする。でこぼこに足を取られて転んでしまう。  
はじめは不平を言っていた子どもたちも自分の失  
敗をでこぼこ地面のせいにしてたり、地面のせいだ  
と慰めてもらっているうちに今度こそはと要領を  
つかみうまくなっていく。いつの間にか安全な校  
庭を提供してもらった弟妹たちも遠巻きに観戦し  
ている。いつの日か自分もと思っているかどうか  
はわからないけれど、ギャラリィに囲まれ田んぼ  
サッカーはますます盛り上がっている。





▲田んぼサッカー

### 不安定を楽しむ？

サッカーの傍らで、えいきくん（二歳二ヶ月）は史跡発掘で出来た粘土質のごろ土の山を二、三步登っては転び歓声を上げています。けがをしないかと近づいてみる。土のかたまりの上になると足下の土のかたまりが壊れて体のバランスが崩れ転んでしまう。しりもちをついたり前につんのめったりする。母親と私は止めようと手を差し出すがその手を振り払って繰り返す。石のような形の土がえいきくんの体重で壊れることが面白いのか、足下がぐらつき倒れることが面白いのか、倒れても元気に起きあがれることが面白いのか、衣服は泥だらけになっている。母親は「このごろ洗濯物が増えました。元気に遊べた証拠です」と笑っている。えいきくんは、十一月のお散歩では同行のみんなに迷惑をかけないように抱っこして

急ごうとした祖母を振り払ってお宮さんの石段を一段一段時間をかけて自分の足で登り切り、充実した笑顔を見せていた。「家の中では私に付きまわってばかりなのです。ここに来ると笑顔が見られてうれしい。男の子は外で体を動かさないとダメなんです」と母親。自然は子どもたち一人一人にその子どもの必要とする経験を提供してくれている。子どもたちは実地的確に自分の生活にその環境を取り込んでいる。えいきくんの笑顔を見ながら納得する二人であった。

この日のことで「レインボー通信」に寄せられた参加者の声を紹介します。

この通信は保護者の手によって生まれたものです。はじめはお互いに撮った写真を交換していましたが、それが好評で「それなら、いつそのこと、楽しい写真を貼り付けて通信を作って、内輪

で楽しんでやえ」とパソコンの得意なお父さんが参加者から送られてきたメールを編集して参加者に配っています。

にじサタデーのたんぼサッカーが楽しかった。たんぼサッカーの動きにくいところが、とくにもしろかった。いっぱい動いた後のやさしいものは、とってもおいしかった。(小学三年生 Y)

「たんぼサッカー」でおもうこと

子どもたちとたんぼサッカーをしました。最初は、「でこぼこでボールがけりにくい」「へんなの」なんて言っていた子ども達でした。ところが、しばらくする間に、でこぼこがつくり出すボールの動きに慣れ、自分の足に巧みにボールを添わせていました。また、「なかなかボールがない」と不平を言っていたゴールキーパーの子

# レインボー通信

2003. 3. 22発行

2月のにじサタ、たのしかったですね。おいしかったですね。太くてあまい大根やほうれん草、ちんげんさいや人参、そして感動の体験や大奮闘の自慢話が、しばらくの間我が家の食卓を飾りました。平尾のおじさまの畑に入れて頂いた子どもたち（実はママたちが一番熱狂していましたが・・・）の真剣な顔、驚いた顔、満足した顔がとってもまぶしかったですね。感謝感謝です。

春の白いをあいこねていさ!!

ありがとうございます



よしよつ



やったぞ! どうぞ!



「うんとこしょ どっこうしょ」土から引っこ抜くと、ああ 感動。「おっきい」「おもしろい」「つちのなかのところで、ここ いろがちがう」「葉っぱちくちく」

▲保護者の手によって生まれたレインボー通信



は、いつの間にか、ゴールを引っぱってきて、距離を縮めていました。ゲームはエキサイティングになりました。子どもは本当にすごいと思います。自分のおかれた状況に埋もれず、よい状況をつくり出していきます。私たちもそうありたいと思います。よい関係、環境、よりよい状況をつくり出し、子育てに奮闘する仲間達と共にある生活を楽しみたいと願います。(α, パパ)

自然にチャレンジする。それは、今、日常生活の中でなかなか経験することのできないことのように思います。しかし、それがここではできる喜びを親子共々感じています。

ドングリを求め、山の中をいけるところまでいってみる。田んぼサッカーでは、でこぼこグラウンドで転びながら、自然の土の上で思いっきり体を動かし、うまく走れるコツをつかむ。伸び伸

びと楽しそうにサッカーをする子どもたちの姿。生き生きとし、目は輝き、あふれる笑顔に感謝の気持ちでいっぱいになりました。自然に感謝。じサタデーに感謝です。(K, B)

今回は、『じサタデー』の始まりと冬の生活の一部を事例と写真で見てくださいました。たまたま自然環境に恵まれた場所が得られたので、地域を知れば知るほどに次回は散歩をしたい、見つけた山芋を掘りたいと子どもたちの夢がふくらんで地域全体が保育(生活)の場になってきています。子どもが育つ環境を提供して頂ける地域の方々やスタッフに感謝です。三年目を迎えた今、その気になれば子どももの集う場所は子育て塾になることを実感しています。

(神戸女子大学)